

— イノベーションをリードする持続可能な都市づくり —
多摩ニュータウン地域再生ガイドライン



平成30(2018)年2月



みんなで進める 多摩ニュータウンの再生

多摩中央公園(多摩市)

多摩ニュータウンの概要

多摩ニュータウンは、東京都西南部の多摩丘陵に位置する、八王子、町田、多摩及び稲城の4市にわたる総面積約2,853ha、東西約14km、南北約2～3kmの地域です。

昭和46(1971)年の諏訪・永山地区における入居に始まり、多摩センター駅を中心として広域的な鉄道ネットワークが形成されるとともに、道路、公園などの都市基盤が高い水準で整備されてきました。

現在は、住宅を始めとして業務、商業、教育、文化など多様な施設が立地する人口約22万人(平成27(2015)年現在)を擁する多摩地域における複合拠点となっています。

多摩ニュータウンの魅力

多摩ニュータウンは、道路や公園など公共施設と日々の生活に必要な教育施設や近隣センターを一体的に整備してきたことから、次のような魅力を持っています。

緑が豊かで良好な居住環境

- ・道路、公共交通、公園など、都市基盤が充実
- ・多摩丘陵の自然環境とも調和した多くのみどり
- ・医療施設やごみ処理施設などの生活機能が充実

交通条件など企業進出に適した環境

- ・都心や空港などへの交通アクセスが良好
- ・多くの大学が立地した学園都市
- ・地震災害に対する安全性が高い



無電柱化された戸建住宅地(稲城市)



分譲住宅団地の再生(多摩市)



首都大学東京と南大沢駅周辺(八王子市)



小山内裏公園(八王子市・町田市)

多摩ニュータウンの現在

多摩ニュータウンは、昭和46(1971)年の入居開始以来、大量の住宅が供給されるとともに、道路や公園などの都市施設が計画的に整備されることで、東京の経済的な成長にも大きな役割を果たしてきました。

しかし、この多摩ニュータウンも、入居開始から45年が経過し、少子高齢化や住宅、施設の老朽化など様々な課題が顕在化してきています。

一方で、多摩ニュータウンを広域的な観点から見ると、リニア中央新幹線や南多摩尾根幹線など、将来のまちづくりに大きく影響を及ぼす交通インフラの整備が加速しています。

多摩ニュータウンのこれから

少子高齢化が急速に進む中で東京のイノベーションをリードする持続可能なまちとして多摩ニュータウンの再生を進めるためには、まちづくりに係る市民、NPO、大学、各事業者、企業などと行政が、一体となって協働していくことが大切です。

みんなで力を合わせて多摩ニュータウンの将来像を実現していきましょう。

